

平成 31 年春期 プロジェクトマネージャ試験合格発表 分析コメントと今後の対策

(株) アイテック IT 人材教育研究部 2019,6,21

4 月 21 日 (日) に行われた平成 31 年春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。同時に発表された得点分布などの統計データの分析をもとに、プロジェクトマネージャ試験の合格発表コメントをお知らせします。

■プロジェクトマネージャ試験 (PM)

[平成 31 年春期のプロジェクトマネージャ試験 統計情報]

応募者	17,588 人
受験者	10,909 人
合格者	1,541 人
合格率	14.1%

平成 31 年春期のプロジェクトマネージャ試験の合格率は 14.1%で、前回の 13.2%から若干増加しました。

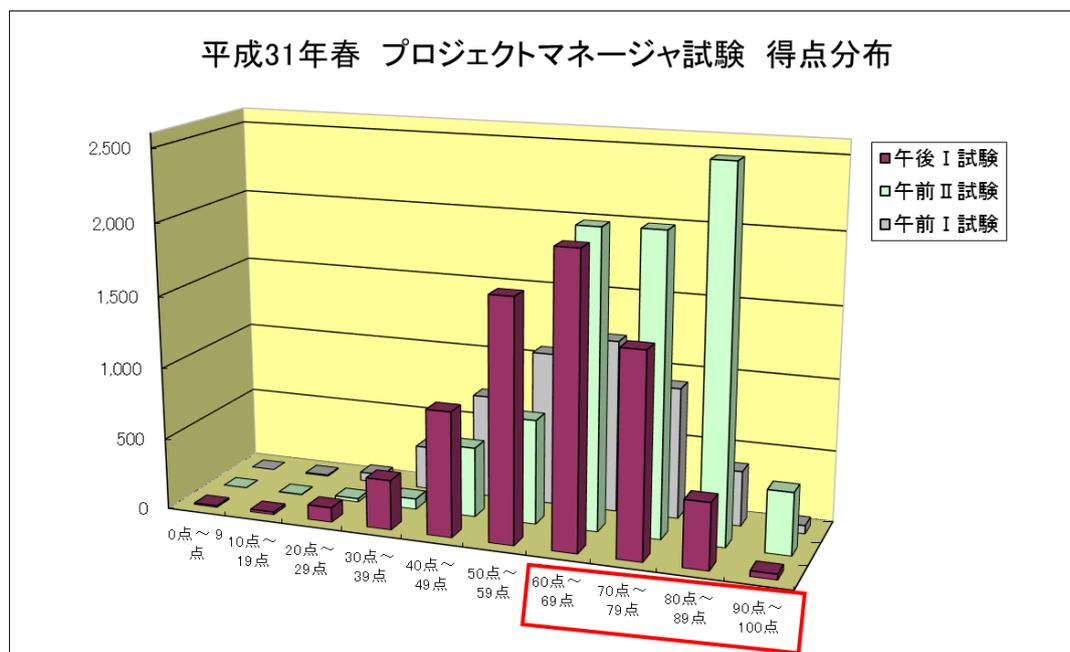
次に発表されたスコア分布の分析とグラフを示します。

(平成 31 年春 プロジェクトマネージャ試験 スコア分布)

得点	午前 I 試験	午前 II 試験	午後 I 試験	午後 II 試験	合格者
0 点 ~ 9 点	0	1	11	D 605	
10 点 ~ 19 点	8	3	19		
20 点 ~ 29 点	61	24	103	C 1,028	
30 点 ~ 39 点	305	74	347		
40 点 ~ 49 点	723	489	868	B 689	
50 点 ~ 59 点	1,072	730	1,673		
60 点 ~ 69 点	1,204	2,068	2,016	A 1,541	
70 点 ~ 79 点	917	2,077	1,404		
80 点 ~ 89 点	385	2,541	458		
90 点 ~ 100 点	58	433	39		
計	4,733	8,440	6,938	3,863	1,541
対前試験比率		178.3%	82.2%	55.7%	39.9%
午前 I 免除者概算	6,176	56.6%			

合格者数	1,541	採点者数の割合	合格者数との差
午前 I 60 点以上合計	2,564	54.2%	1,023
午前 II 60 点以上合計	7,119	84.3%	5,578
午後 I 60 点以上合計	3,917	56.5%	2,376
午後 II -A 評価	1,541	39.9%	0

平成31年春 プロジェクトマネージャ試験 得点分布



午前 I 試験免除の人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 I 試験の免除者は概算で 6,176 人 (56.6%) おり、受験者の 5 割以上が午前 II からの受験となっています。この午前 I 試験で基準点 60 点以上取ることができた人は、2,564 人 (受験者の 54.2%) でした。

午前 II 試験で基準点以上の方は 7,119 人 (受験者の 84.3%) で前回の 78.8% から増加しています。

午後 I で基準点 (60 点) 以上取れた人は 56.5% で、前回の 53.7% から少し増加しました。

午後 II で合格点の A 評価だった人は 39.9% で、前回試験の 40.2% とほぼ同じです。問題の主旨がこれまでと変わり、C, D 評価の人が少し増えましたが、合格率の大きな変化はありませんでした。

■平成 31 年春期 プロジェクトマネージャ試験の出題内容について

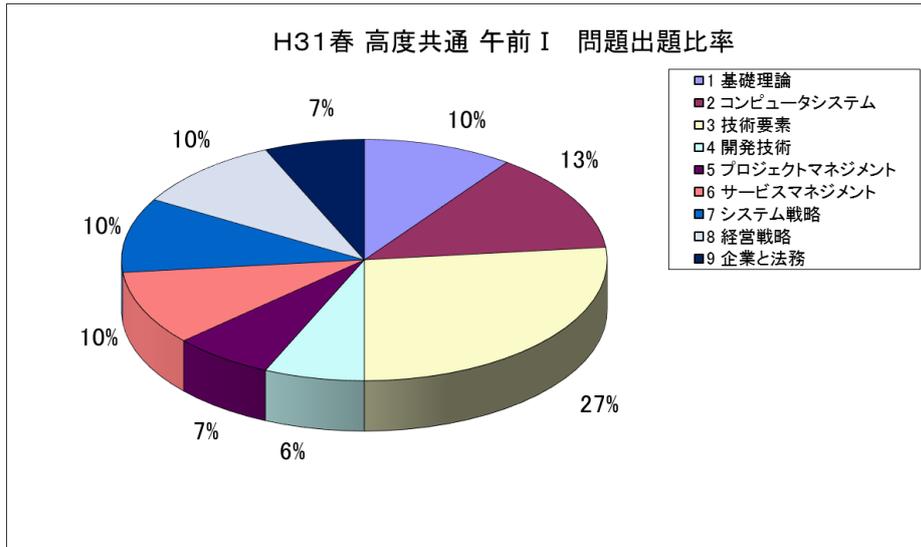
(午前 I 試験 (高度試験の共通知識問題))

- ・高度試験に共通して出される問題 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験 (AP) から選ばれています。今回の問題内容は、文章問題は 17 問 (前回 15 問から増)、用語問題は 3 問 (前回 6 問から減)、計算問題が 3 問 (前回 5 問から減)、考察問題が 7 問 (前回 4 問から増) でした。これらは毎回増減があります。
- ・これまで出題範囲からまんべんなく問題が出されていましたが、前回出題されなかった「システム構成要素」は今回出題されました。
- ・過去問題が約 7 割ありましたが、解答しづらい問題は少なく、全体として解答しやすい出題内容だったといえます。
- ・重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ 4 問でした。
- ・新傾向問題は次の 3 問で、これまで平均 4~5 問あった中ではやや少なかったといえます。

(新傾向問題)

- 問 24 ワントゥワンマーケティングを実現するソリューション
- 問 27 オープンイノベーションに関する事例
- 問 28 IoT 活用におけるデジタルツインの説明

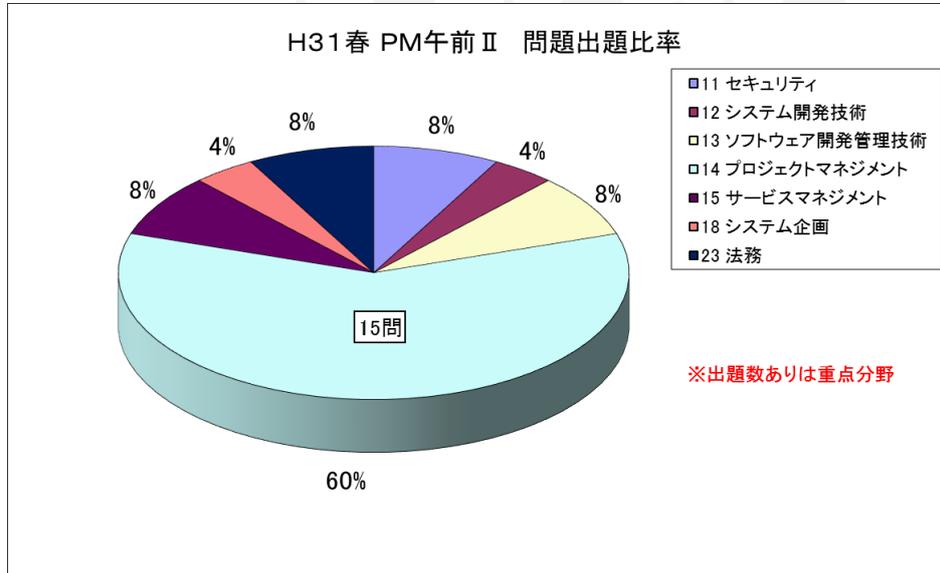
平成 31 年春期の高度試験共通 午前 I 問題出題比率



(午前 II の専門知識問題)

午前 II 試験では、専門分野のプロジェクトマネジメント (PM) 分野で 15 問出題されています。PMBOK と明記した問題は今回 3 問で、前回の 5 問から減りました。今回の試験から PMBOK は第 6 版になりましたが、変更内容を問う内容は出題されませんでした。また、ISO 21500「プロジェクトマネジメントの手引」が JIS Q 21500:2018 になり、今回の試験で 2 問出題されました。

平成 31 年春期のプロジェクトマネージャ試験 午前 II 問題出題比率



過去のプロジェクトマネージャ試験問題の出題は 11 問ありました (前回 9 問)。この中で平成 29 年度の問題が 7 問出題されました。新傾向問題としては次の 7 問が挙げられ、前回の 4 問からかなり増えています。

問 6 重み付けマイルストーン法の説明

問 7 ステークホルダー・エンゲージメントのマネジメントで行う活動

問 10 感度分析の結果を示した図の名称 (トルネード図)

問 12 ワーク・パッケージ

問 15 プロジェクト・スコープ記述書の説明

- 問 16 テストケースを設計する技法の名称
問 19 事業関係マネージャが責任をもつ事項

次に、午後Ⅰと午後Ⅱ試験の分析結果をお知らせします。

〔午後問題〕

・午後Ⅰ問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。今回の試験ではコンタクトセンタ、IoTを活用した工事管理システムなど新しいトピックスを取り入れた問題になっています。

問 1 コンタクトセンタにおけるサービス利用のための移行（SI 事業者） やや易～普通
現コンタクトセンタの概要，新サービスへの移行概要，移行条件と対応，リスク対応計画，自動対応機能導入の確認事項，移行リハーサル，訓練環境，検収作業，スケジュール対応

問 2 IoT を活用した工事管理システムの構築（中堅土木工事業） 普通
顧客状況，工事管理システム概要，IaaS サーバへのデータ蓄積，WBS 作成，リスク対応，IoT 活用の開発プロジェクトの特性，WBS 確認理由，遅延の影響，人選，必要ソフトの機能，内製化

問 3 プロジェクトの定量的なマネジメント（ソフトウェア企業） 普通
企業風土，マネジメント活動の現況，定量的管理手法，プロセス改善，進捗遅れの原因分析，レビュー，EVM による指標設定と計測，標準の試案，進捗率の算出方法，進捗会議，SPI 算出

・午後Ⅱの論文問題の出題分野とテーマは次のとおりです。
今回の出題内容の特徴としては単一のテーマでなく，知識・経験（知見）・助言をキーワードにした問題になっていることで，PM のテクニカルな内容を記述する問題とは趣の異なる内容になっています。

問 1 システム開発プロジェクトにおけるコスト超過の防止について
プロジェクトの特徴，コスト管理の概要，コスト超過を予測した兆候と根拠・対策，PM としての知識・経験，対策の実施状況，対策の評価，今後の改善点

問 2 システム開発プロジェクトにおける，助言や他のプロジェクトの知見などを活用した問題の迅速な解決について
プロジェクトの特徴，解決できなかった品質・納期・コストに影響し得る問題，解決策，有識者・過去プロジェクトの特定，助言や知見の分析と活用，解決策，取組の有効性評価，今後の改善点